

BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース

### 令和7年全日本柔道選手権大会



### 第40回皇后盃全日本女子柔道選手権大会



注目ニュース

# 令和7年全日本柔道選手権大会

香川大吾悲願達成



4月29日に日本武道館で令和7年全日本柔道選手権大会が開催され、香川大吾五段（ALSOK）が悲願の初優勝を果たした。  
※詳細は今月のニュース（120ページ）をご覧ください。

決勝＝香川（右）が原沢から技有りを奪う

注目ニュース

# 第40回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

4月20日に横浜武道館（神奈川県横浜市）で第40回皇后盃全日本女子柔道選手権大会が開催され、田中伶奈四段（大阪府警察）が初優勝した。

※詳細は今月のニュース（124ページ）をご覧ください。



決勝Ⅱ田中（手前）が白金を大外刈りで下す

## 田中伶奈が新女王に

# 令和7年全日本柔道選手権大会 香川大吾 (ALSOK) が初制覇



香川（上）が大内刈で技有りを奪う

## ■決勝

香川大吾 ○大内刈 原沢久喜

令和7年全日本柔道選手権大会（主催Ⅱ講道館、全日本柔道連盟）が4月29日に日本武道館で開催された。全国10地区から選出された40名と推薦選手7名の計47名が出場した。66kg級で五輪連覇を達成した阿部一二三（パーク24）をはじめとするパリ五輪代表選手が4名参加した今大会の注目度は高く、約7500名の観客が詰めかけた。

決勝は香川大吾（ALSOK）が過去2度の同選手権優勝経験がある原沢久喜（長府工業）との激闘を制し、悲願の初優勝を果たした。



出場7回目で初優勝を目指す香川と、過去2度の優勝経験がある原沢の一戦。試合序盤、原沢が内股を攻め、技を仕掛けるも香川が粘る。その後両者ともに果敢に技を仕掛けるも決め手に欠ける。試合が動いたのは残り時間3分4秒、香川が大内刈で技有りを奪う。その後巻き返しを図りたい原沢であったが、疲れも見えはじめポイントを奪えず試合終了。香川が初の栄冠を手にした。

# ■準決勝①

香川大吾 ○引込返 中野寛太

香川と前回大会覇者で連覇を目指す中野寛太（旭化成）の顔合わせ。序盤、中野が積極的な技を仕掛ける。中野が攻め、香川が粘り強く仕

掛けるタイミングを窺う展開に。試合が動いたのは開始2分51秒、中野が掬投を狙ったところに香川が引込返を決めて技有りを奪う。その後も香川が中野にポイントを取らせず、試合は終了。香川が勝利を収めた。



準決勝①＝香川（左）対中野

# ■準決勝②

原沢久喜 ○谷落 増山香補

原沢と今大会初出場の増山香補（パーク24）が対戦。試合は、両者が積極的に攻めるも決め手に欠き、ポイントが動かないまま試合が続く。



準決勝②＝原沢（左）が谷落で一本勝ち

判定での決着かに思われたが、残り時間7秒のところで一瞬の隙を見逃さなかった原沢が谷落で見事な一本勝ちを収めた。終了残りわずかのところからの一本勝ちに場内が大歓声に包まれた。

# 苦難乗り越え悲願達成

◎優勝Ⅱ香川大吾五段（ALSOK）



意な大内刈で決めることができてよかったです」

——全日本選手権に対する思い

「高校生の時に最年少で出場しましたが、社会人ではなかなか結果を出せず、周りからも『高校生の時は強かったよね』と言われることが増え、悔しい思いをして過ごしてきました。今回優勝してやっと摺んだなと思っています」

——大会を通しての感想

「誰が上がつてくるかわからない中で、一戦一戦目の前の相手を倒すことに集中して、試合を楽しむことができました」

——今後の目標について

「日本一になっていない中で世界の舞台を目指すのは現実味がありませんでしたが、やっと日本一のタイトルを取れたので、世界を目指していきます。28歳でベテランと言われる立場になってきていますが、年々強くなっていると自負しているので、次のオリンピックを狙います」

# ◎パリ五輪代表4選手が出場

今大会では、初出場の阿部一二三

をはじめ、永山竜樹（パーク24）、

橋本壮市（パーク24）、ウルファロ

ン（パーク24）らパリ五輪代表選手

が参戦し、大きな反響を呼んだ。

永山は1回戦で身長182cm・体重160

kgの incoming 巨助（筑波大）との対戦。

両者の体重差は100kg近くあり、今大会で最も体重差のある対戦となった。

試合は永山が果敢に技を仕掛けるも、大き過ぎる体格差を埋めることはできず、一本負けを喫した。

初出場の阿部は、1回戦では豪快な背負投で一本勝ちを収め会場を大いに沸かせたが、2回戦で敗退となった。

橋本は2回戦を突破するも、木元拓人（日本製鉄）に敗れ3回戦敗退となった。

平成31年の選手権覇者であり、今大会が現役最後の個人戦となるウルフが第1試合に登場。大内刈で一本勝ちを収め、観客を魅了した。しかし、3回戦で前回大会覇者の中野に敗れ、現役最後の個人戦に幕を閉じた。

1回戦＝阿部（上）が背負投で一本勝ちを収める



1回戦＝永山（右）が果敢に技を仕掛ける



1回戦＝阿部（上）が背負投で一本勝ちを収める



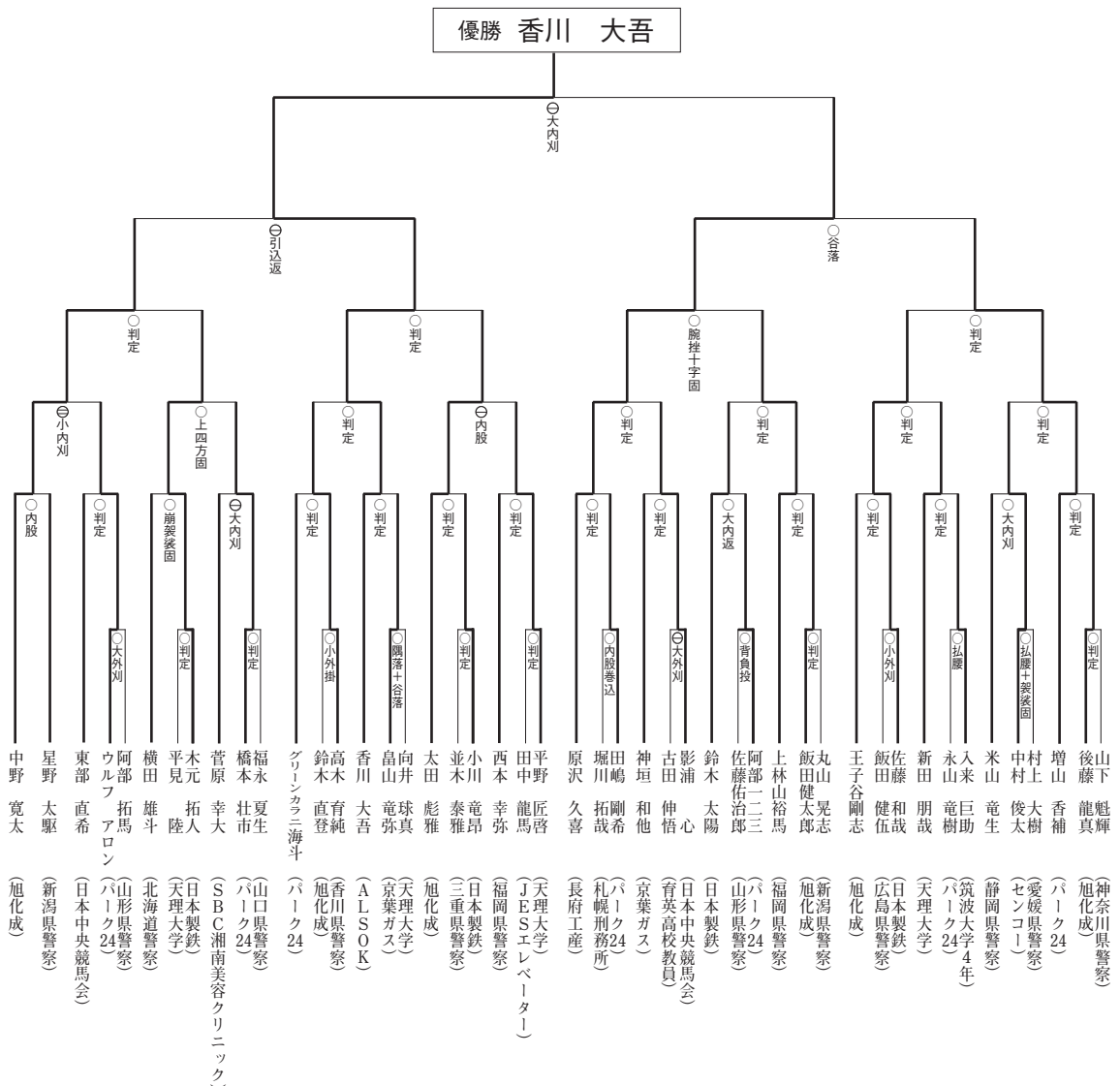
約 7500 名の観客が見守る中大会が行われた



天皇杯を受け取る香川 (左)

## 令和 7 年 全日本柔道選手権大会

○=一本、⊖=技有、⊕=有効



## 第40回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

# 田中伶奈が初優勝

第40回全日本女子柔道選手権大会（主催Ⅱ講道館、全日本柔道連盟）が4月20日、横浜武道館（神奈川県横浜市）で開催された。体重無差別で女子柔道日本一を決める今大会には、推薦および全国10地区の予選を勝ち上がった33名の選手が出場。トーナメント方式で熱戦を繰り広げた。今大会の決勝は、ともに初優勝がかかる田中伶奈（近畿・大阪府警察）と白金未桜（関東・筑波大学2年）が対戦。田中が大外刈で一本を奪い、初優勝に輝いた。



皇后盃を手にする田中

今大会は、前回大会優勝者の瀬川麻優（推薦・ALSOOK）が欠場したことで優勝経験者不在、加えて体重無差別の大会としては珍しく中量級（70kg級）以下の選手が半数を占める大会となった。

2009年以降反則として扱われてきた、いわゆる「足取り」（相手と組んだ状態から相手の帯から下を掴む行為）を本大会で解禁することを昨年12月に全日本柔道連盟が発

表。そのため、小柄な軽・中量級選手が大柄な重量級選手の足元を狙う戦術が多く見られ、重量級（78kg超級）の有力選手が序盤戦で敗退し、4回戦を終えた時点で全重量級の選手が姿を消すこととなった。

ベスト4には、軽重量級（78kg級）の田中、軽量級（57kg級）の白金、中量級の石岡来望（中国・環太平洋大学4年）と西條里奈子（近畿・龍谷大学4年）が進出した。

◇

準決勝1試合目は田中と石岡の試合。終盤戦、田中が大きく足を振り上げた内股で石岡の体を持ち上げる。石岡は体を捻り、かろうじて一本となるのを防いだ、ビデオ判定

の結果、有効となる。田中はポイントを守り切り優勢勝ちとなった。

準決勝2試合目は白金と西條の試合。互いに一本を決めきれないまま終盤戦へ。「体力に自信がある」と語っていた白金が攻撃をたたみかけ、判定3-10で勝利。大会史上初の軽量級選手の優勝まであと一勝と迫った。

◇

田中、白金による決勝。序盤戦から白金が積極的な技を仕掛け、田中は攻撃を凌ぎながら組み合いに持ち込み、大内刈や体落で反撃する。終盤戦、田中が白金の前襟を掴んだ瞬間、大外刈を仕掛けると見事に決まり、一本。初優勝に輝いた田中は試合後に「途中まで相手に押されている感覚があったので、試合時間8分の中で投げて勝つしかないと思って戦いました。最後は無意識に体が動きました」と語った。

◇

なお、警察官の優勝は第15回大会（2000（平成12）年）の山下まゆみ選手（大阪府警察）以来であり、25年ぶりに再び大阪府警察所属選手に皇后盃が渡ることとなった。



## 決勝 田中伶奈 ○一本勝ち（大外刈） 白金未桜

78kg 級・170cmの田中（上）と、57kg 級・155cmの白金による決勝。豪快な大外刈の一本で田中が初優勝を飾った

### 優勝者コメント

#### ●優勝Ⅱ田中伶奈四段

（大阪府警察）

▽田中選手が、優勝後の率直な気持ちを感じてくれた。

「決勝戦に限らず一戦必勝の気持ちで1回戦から試合に臨み、他の大会でも同じことを思いながら試合していたので、やっと結果に結びついたと感じています。昨年の講道館杯、皇后盃ではともにベスト16と、先に繋（つな）がらない結果が続き、ずっと一からのスタートばかりで悔しい気持ちでした。今日やっと優勝できたことで、今まで

での怪我や敗北が報われたと思いました」

▽今大会で存在感を示し、手応えを感じた田中選手。今後の抱負について。

「目標である講道館杯、警察大会での優勝に繋げていきたいです。また、今回は国内トップの選手が多く欠場している大会でしたが、講道館杯などではそういった選手たちと試合することになると思います。そこで競うことができるよう頑張ります」

#### 準決勝①



田中伶奈 ○有効（内股） 石岡来望

田中（右）が内股で崩しにかかり、石岡がギリギリのところ耐える展開が続く中、終盤戦に田中が放った内股が有効となった

#### 準決勝②



白金未桜 ○判定（3-0） 西條里奈子

白金（右）、西條の両者とも技出しの早さと手数が多さが特徴。試合開始直後から両者の技のぶつかり合いが繰り広げられた

○パリ五輪金・角田が皇后盃参戦

今大会には、2024年パリオリンピック金メダリストの角田夏実（推薦・SBC湘南美容クリニック）が出場した。角田は、階級が上の選手に対して得意の巴投や関節技を多彩に繰り出し、観客を魅了。1回戦は判定勝ち、2回戦は巴投で有効を奪い、優勢勝ちを収めた。3回戦では判定で敗れるも、試合場後にする角田に観客から健闘を讃える大きな拍手がおくられた。

試合後のインタビューで角田は「思っていたより負荷の高い大会になりました。1回戦終わった後の疲労度がいつもと違い、海で遊び切った後のようなだるさがありました」

▽出場選手コメント

●準優勝Ⅱ白金未桜三段

（筑波大学2年）



「1回戦から挑戦者の気持ちで試合し、決勝でも自分の柔道で貫こうと思ったのですが、相手の方が一枚上手でした。それでも自分のできることはやり切れたと思います」



攻めの機会をうかがう角田（左）

と笑顔で答え、体重無差別での全日本大会について「体重差については練習で対策を練ってきたのですが、実際の試合では払われた時の重圧など全然違うので、いい経験ができました」と振り返った。

第40回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

○=一本、⊖=技有、⊖=有効

段位（地区・所属）

和田梨乃子  
三段（東京・パーク24）  
山本 杏  
三段（東海・静岡県警察）  
高山 紗楓  
三段（中国・警視庁）  
白金 美桜  
三段（関東・筑波大学2年）  
寺田学多葉  
四段（東京・J R東日本）  
吉峰美母絵  
三段（近畿・大阪府警察）  
橋高 朱里  
五段（北信越・金沢学院短期大学教員）  
角田 夏実  
五段（推薦・SBC湘南美容クリニック）  
鏑山真菜実  
三段（四国・生光学園高校3年）

梅津 志悠  
四段（九州・J R九州）  
泉 真生  
四段（東京・コマツ）  
佐藤星麗七  
三段（関東・ブイ・テクノロジー）  
新名 彩乃  
三段（東北・福島県警務所）  
古賀ひより  
四段（東京・パーク24）  
平野 友萌  
三段（関東・センコー）  
西條里奈子  
三段（近畿・龍谷大学4年）  
大森 恵花  
三段（東京・早稲田大学4年）  
伊藤 彩乃  
三段（北海道・札幌警務所）

段位（地区・所属）  
潮川 麻優  
五段（推薦・A L S O K）  
牛方 美羽  
三段（東北・仙台大学3年）  
柴田 理帆  
五段（関東・つくばユナイテッド）  
熊本 悠花  
三段（北海道・北海道警察）  
井上 朋香  
三段（九州・筑波大学1年）  
田中 伶奈  
四段（近畿・大阪府警察）  
長谷川瑞紀  
四段（東京・J R東日本）  
前田 菜那  
二段（四国・坂出第一高校3年）  
久野ふくみ  
四段（関東・神奈川県警察）  
新井 万央  
三段（東京・日本体育大学4年）  
高木 水月  
三段（近畿・明治国際医療大学4年）  
谷岡 成美  
三段（関東・日本エースサポート）  
松田 美悠  
三段（北信越・富山サンダーバズ柔道クラブ）  
木下 汐蘭  
初段（関東・富士学苑高校3年）  
石岡 来望  
三段（中国・環太平洋大学4年）  
西願寺里保  
四段（東京・コマツ）  
竹村 安生  
三段（近畿・兵庫県警察）  
小林 未奈  
四段（東海・愛知県警察）

す。今日の準優勝で、体が小さくても大きな相手に勝てるという自信ができました。講道館杯などの体重別の大会で優勝するという目標に向かって、今日の結果をこれからの試合に活かしていきたいです」

◇

・**鑄山真菜実**（生光学園高校3年）  
最年少（17歳）、2回目の出場。  
1回戦で角田と対戦し、5分間の試合の末、判定で敗退。

「（角田選手の得意技の）巴投の対策もしていたのですが、威力もスピードも予想以上でした。角田選手と試合できる機会はめったにないので、今日の経験をこれからの試合に

繋げていきたいです」

・**柴田理帆**（つくばユナイテッド）  
今大会最軽量の52kg。2回戦で牛方美羽（東北・仙台大学3年）と対戦。健闘するも、試合終了間際に袈裟固での一本負けを喫した。

「とても悔しいです。自分より大きい相手と組み合う練習もしていたのですが、大会直前の怪我などもあり練習不足を感じています。いい勉強になりました」

・**木下汐蘭**（富士学苑高校3年）  
最年少（17歳）、初出場。1回戦で石岡と対戦し、5分間戦い切った末に判定で敗退。  
「繰り上げの出場が決まった時はと

ても嬉しかったのですが、全力を出しきれないまま終わってしまったので、どんな相手と戦っても自分の柔道ができるよう、またこれから頑張りたいです」

▽柔道女子日本代表監督コメント

塚田真希氏

「決勝は、両選手とも8分間の試合でもスタミナ切れせず戦っていたので頼もしく感じました。今大会は軽い選手が活躍した一方、重量級選手の物足りなさも感じました。勝負の世界は厳しく、大会のルールへの適合という面も選手に求められてくると思います。真剣に喰らいつく重量

級選手が出てくると、私たちも励みになります」



本大会の初代チャンピオンである森山（旧姓：八戸）かおり氏（上）が講道館護身術の演武に出場

## 日本武道館の単行本

# マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一

吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

B5判・236頁

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課まで  
TEL 03-3216-5147

# 第69回全日本銃剣道優勝大会



一般の部決勝・中堅戦＝2本目を狙う本間道場A・野田（右）



## 一般の部 本間道場Aが V奪還

第69回全日本銃剣道優勝大会

（主催）全日本銃剣道連盟が4月20日に日本武道館で開催され、一般の部・女子の部・防衛省第1部（陸上自衛隊の指定部隊）・防衛省第2部（1部以外の陸・海・空自衛隊）の全4部門に分かれて優勝を争った。

一般の部は、前々回大会で優勝の本間道場A（神奈川）が、前回大会3位の元氣道場（新潟）を2―1で下し、悲願の優勝を決めた。

女子の部では、大村駐屯地（長崎）が前回大会優勝の普通科教導連隊（静岡）に2―1で競り勝ち、初優勝を飾った。

防衛省第1部の決勝は、前回大会では惜しくも3位だった優勝候補の普通科教導連隊（静岡）と第42即応機動連隊（熊本）の対戦。5―0で普通科教導連隊が完勝して2年ぶりの優勝を果たした。

防衛省第2部は、全部門で最多の92チームが参加。決勝は、前回大会優勝の日本原駐屯地（岡山）が石垣駐屯地（沖縄）を5―10で下し、連覇を達成した。

## ■一般の部(3人制・38チーム)

決勝は、前々回大会優勝の本間道場Aと前回大会3位の元氣道場の戦いとなった。

本間道場Aは4回戦で劣勢に立たされるも2―1で勝利し、準決勝は3―0で完勝を取めて、勢いそのまま決勝に向かった。

対する元氣道場は、初戦から準決勝までの全試合を3―0で完勝し、決勝に駒を進めた。



一般の部決勝・先鋒戦は決め手を欠き判定へ

### ◆決勝

本間A 2―1 元氣道場

野原 崇 判― 近藤駿平

野田峻祐 ①― 野口将史

鈴木崇之 ①上 滝沢元氣

先鋒戦、試合序盤は両者果敢に攻め立てるが、決め手を欠いて試合終了。本間道場A・野原が判定勝ちを収めた。

中堅戦、後がない元氣道場だが、本間道場A・野田が上胴を決めて勝利し、本間道場Aが2年ぶりの優勝を果たした。大将戦では、元氣道場・滝沢が連続で上胴を決めて2本勝ちする活躍を見せたが優勝には惜しくも届かなかった。

### ◎優勝Ⅱ本間A・安西直毅監督

「昨年連覇が途切れましたが、選手一同が初心を大切に頑張ってきた結果が出てたいへん嬉しく思います。決勝は緊張感を持った試合ができたと思います」



## ■女子の部(3人制・44チーム)

決勝は、初優勝がかかる大村駐屯地と前回大会優勝の普通科教導連隊の対戦。

大村は準決勝で前回大会準優勝の北海道選抜Aと対戦。3―0で勝利し、決勝に進出した。

対する普教連は苦戦を強いられた場面もあったが、前回大会優勝の貫禄をみせて決勝へと進んだ。

### ◆決勝

大村 2―1 普教隊

永木友梨 ①上 森川友紀子

佐藤智尋 ①上 花田莉緒

里 麻衣 ①上 今澤美紗貴



女子の部決勝・大将戦＝大村・里(左)が上胴で優勝を決めた

先鋒戦、普教連・森川が2本勝ちを収め、後がない大村。注目の中堅戦、前半に大村・佐藤は普教連・花田が突いて来たところを上手くかわして上胴を決めた。後半にも上胴を取り2本勝ち。

優勝がかかった大将戦、大村・里は前半に上胴を決め、勢いそのまま一度上胴を決めて2本勝ち。見事大村が初優勝を飾った。

### ◎優勝Ⅱ大村・尾崎秀次郎監督

「1回戦から挑戦者という気持ちで臨みました。これからも練習してさらに強くなれるよう頑張っていきます」



女子の部優勝＝大村駐屯地(長崎)



防衛省第1部決勝・先鋒戦＝普教連・土居（左）が下胴を先取



普教連・坂元監督の胴上げ

## ■防衛省第1部（5人制・52チーム）

決勝は、前回大会3位で2年ぶりの優勝を狙う普通科教導連隊と第42即応機動連隊の試合となった。

### ◆決勝

|      |       |       |
|------|-------|-------|
| 普教連  | 5-0   | 42即機  |
| 土居祐介 | （下）上  | 緒田慶一朗 |
| 吉田充宏 | （上）判上 | 小関晃   |
| 西村健  | （上）上  | 塩田剣士朗 |
| 鎌倉卓摩 | （下）下  | 宮本翔   |
| 佐藤岳  | （上）上  | 井上聖太  |

先鋒戦、試合開始直後から普教連・土居は果敢に攻めて、42即機・緒田の一時の隙をみて下胴を先取した。後半にも土居が上胴を決めて2本勝ちを収めた。次鋒戦、普教連・吉田は試合開始直後に上胴を決めた。42即機・小関も粘り強さをみせ、上胴を奪う展開に。判定に移り、吉田が旗2本で判定勝ちとなった。

注目の中堅戦、昨年の全日本選手権大会で優勝の普教連・西村が素早い突きで上胴を先取。試合終了間際にも西村の上胴が冴え2本勝ち。普教連が2年ぶりの優勝を決めた。

副将戦、大将戦で一矢報いた42即機だが、普教連の壁は高く、42即機はいずれの試合も2本を取られた。普教連の完勝と言える内容だった。

### ◎優勝＝普教連・坂元誠監督

「昨年、3連覇を目指していたが、第16普通科連隊（長崎）に惜敗してしまい、優勝を奪還する気持ちで今回は臨みました。助教と選手の頑張り感謝の気持ちでいっぱいです」



防衛省第2部決勝・副将戦＝日本原・大庭（右）が上胴を決めて2本勝ち

## 防衛省第2部（5人制・93チーム）

決勝には、前回大会優勝の日本原駐屯地と石垣駐屯地が進出した。

### ◇決勝

日本原 5―0 石垣

植田晋悟 判― 豊川 魁

松延靖久 ①― 須永拓也

大橋真悟 判― 矢野英樹

大庭裕二 ①上― 藤本幸太

藤原考貴 ①下― 板橋拓也

先鋒戦、前半に日本原・植田が上胴を狙い旗が上がりそうな場面があったが、試合は判定で植田の勝利。

次鋒戦、日本原・松延は石垣・須永が突いてきたところを上手く捌き下胴を決めて1本勝ち。

注目の中堅戦、石垣・矢野は積極的に攻めるが、日本原・大橋は上手くかわす。判定となり、大橋に2本の旗が上がり僅差で勝利。日本原が前回大会に続き優勝を果たした。

副将戦、両者互角の攻防をみせるが日本原・大庭が前半に下胴を先取。試合時間残り30秒、大庭が下がり、石垣・藤本を引き付けたところで素早く上胴を突き2本勝ちした。続く大将戦も日本原・藤原が圧巻の

試合展開で2本勝ち。日本原が強さを発揮した。

### ◎優勝Ⅱ日本原・上田啓二監督

「チーム一丸となって戦ってくれたのを嬉しく思います。決勝は一人一人が全力を出したので、安心して見ることができました」

### 【大会成績】

▼一般の部Ⅱ①本間道場A（神奈川）②元氣道場（新潟）③

高知中央高校（高知）、防衛大学校A（神奈川）

▼女子の部Ⅱ①大村駐屯地（長崎）②普通科教導連隊（静岡）

③北熊本駐屯地（熊本）、北海道選抜A（北海道）

▼防衛省第1部Ⅱ①普通科教導連隊（静岡）②第42即応機動連隊（熊本）③第11普通科連隊（北海道）、第16普通科連隊（長崎）

▼防衛省第2部Ⅱ①日本原駐屯地（岡山）②石垣駐屯地（沖縄）③富士駐屯地A（静岡）、小松基地（石川）

## 第60回関東小学生剣道錬成記念大会

# 少年少女剣士たちの 活気に溢れた記念大会



かかり稽古で修練に励む選手たち

第60回関東小学生剣道錬成記念大会（主催Ⅱ東京都少年剣道研究会）が4月13日、日本武道館で開催された。節目となる第60回を迎えた今大会は、148団体・約1400名の少年少女剣士たちが参加した。

また、今大会では「文武両道」をテーマに掲げ、剣道のほか、書道・絵・作文のコンクールを「作品道場」として開催した。

◇  
開会式では松村政孝大会会長による挨拶に続き、タレントで剣道錬士六段の渡辺正行氏と、剣道五段の深沢邦之氏がそれぞれ来賓祝辞を述べ、会場を大いに沸かせた。

開会式終了後はかかり稽古に入り、選手たちは先生方とともに汗を流した。かかり稽古後には試合へと移り、14試合場に分かれて小学4年生から中学1年生の参加者たちが日頃の修練の成果を存分に発揮した。

また、日本武道館内の一室では書道も実施しており、積極的に参加する少年少女たちの姿が見られた。

閉会式では、万歳三唱が行われ記念大会を盛大に締め括った。



来賓祝辞・深沢邦之氏



来賓祝辞・渡辺正行氏



大会会長挨拶・松村政孝氏



向かい合っていざ稽古



白熱した戦いを繰り返し広げる



鮮やかな面で一本



書道にも真剣に取り組む

【大会結果】

■剣道試合

※新中学1年生の優勝者のみ掲載

●男子

安彦絢星（武蔵村山市剣道連盟）

才津郁翔（昭島中央剣友会）

川勝心雅（梅本少年剣友会）

乙幡彪翔（敬天館道場）

武島遥人（春日部剣真会）

●女子

及川愛梨（瀬谷区剣道連盟）

増山藍子（太田少年剣友会）

■書道の部

▽中学1年生Ⅱ川名夏帆（嶺南剣友会）、四ツ谷茅咲（市川中央剣正会）、磯村詩織（桜剣道スポーツ少年団）、池田春杜（桜剣道スポーツ少年団）、阿形虹恋（船堀剣心会）、福田悠花（桜剣道スポーツ少年団）、山田晴太（志津剣道同好会）

▽小学6年生Ⅱ橋本彩愛（新小岩剣友会）、下川智貴（凌雲館緑剣道場）、高橋征晃（熊谷剣道教室）、小川紗由樹（岬町少年剣友会）、笹本はな（鴨川警察剣友会）

▽小学5年生Ⅱ西ノ園唯夏（流山市剣道連盟江戸川台支部）、藤澤遙

乃（袖ヶ浦剣道同好会）、田口心海（日本武道館研修センター武道学園）

■絵の部

▽中学1年生Ⅱ青木慶（熊谷剣道教室）、久西陽（新小岩剣友会）、三瀬千彩乃（三ヶ島剣友会）、清水実奈（熊谷剣道教室）、山中泰聡（八潮市剣道連盟）、四ツ谷茅咲（市川中央剣正会）、福田悠花（桜剣道スポーツ少年団）

▽小学5年生Ⅱ猪俣陽介（春日部剣真会）

■作文の部

▽中学1年生Ⅱ新井康介（熊谷剣道教室）、門之園結希（オール大久保剣道部）

▽小学6年生Ⅱ本田竜大（習志野武道館）、櫻井一翔（凌雲館緑剣道場）、市川悠（緑が丘剣友会）

▽小学5年生Ⅱ岩朝洗季（緑が丘剣友会）、藤澤遙乃（袖ヶ浦剣道同好会）



日本武道館の単行本



**剣道の文化誌** 明治大学教授 長尾 進 著  
四六判・上製・480頁・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



**剣道 その歴史と技法** 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著  
四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経つに単行本化。



**柔道 その歴史と技法** 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著  
四六判・上製・330頁・定価2,640円

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を語る。



**空手道 その歴史と技法** 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著  
四六判・上製・568頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖、宮城長順の最新の書、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



**マンガ・日本武道風土記** 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著  
B5判・並製・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。



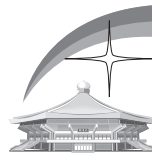
**死ぬまで弓道** 弓道教士七段 小牧佳世 著  
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8か月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全生で弓を引続ける筆者だからこそ記した弓道伝記かつエッセイ



**学校武道の歴史を辿る** 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著  
四六判・上製・354頁・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を語る。



ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158  
<https://www.nipponbudokan.or.jp>